

# 「回復と再建Ⅱ」

～約束されたゴール～

詩篇 127:1-2、イザヤ 58:12

## こぼれてしまったものを回復させる…

教会は私たちが集まって過ごす場所です。けれど、最小単位の教会というのは私達の家にあるわけですね。新年の始めの日に家族と交わって頂いてそこで一年間のビジョン・目的・大事にしたいことを話して欲しい…そんな理由で私達の教会の元旦礼拝は午後2時からもうつようにしてきました。私達の教会の昨年のテーマは実を結ぶ年ということでした。私達の実を結び残さなければならぬ年でした。今年もそれを回復させて再建させようというテーマで昨日の礼拝でお話をさせて頂いています。何かを成そうと私達はどうしても見失ってしまうことがあります。大切にしなければならぬことを目的に進んでいくとそれ以外のこぼれが失われてしまうことがあるわけです。昨年は大切にしなければならぬことを形にして実を残すために前進する年でしたが、今年はそんな中でこぼれてしまったものを回復させていかなければなりません。これは人生に言えることがたくさんあるかもしれません。しかし、「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを私たちは知っています。」(Ⅰコリント 12:28)と聖書で語られている通り、一見失われてしまったかと思われるものもすべてが益とされていくわけですね。これが素晴らしいことです。

## 外さなければならないことを外し、外してはいけないことは外さない…

右脳で生きている人と左脳で生きている人では同じ服の映像を見ても色の見え方が違うことがあります。理屈で生きている人と芸術肌で生きている人の差であるそうですね。また、同じ青色に見えるかどうかわかりません。それくらい人というのは大きく違うのです。そして違うのですが自分の見えるところがそうなんだと決めつけて生きていくのです。私達たちは回復と再建をするためにこの決めつけを外さなければならないのです。そしてもう一つ大切なことは、外してはいけないことは外してはいけないということです。

## 決勝点を得て走る…

聖書の中でパウロも語っていますが私達は決勝点がわからないような走り方はしません。私達は新しい一年をスタートしましたがどこに向かうのでしょうか。何のために仕事をして、何のために活動し、何のために回復し、何のために再建していくのか…。この決勝点がわからないような歩み方をしていると毎日がよくわからなくなってきます。イエス・キリストは「人は、たとえ全世界を得ても、いのちを損じたら、何の得がありません。」(マタイ 16:26)と語っています。いのちを損じるという的を外した人生になってはならないと語っているのです。聖書が言う罪の原点の意味は「的を外す」という意味です。私達が進むべき道を誤り、その誤った実が偽りであり、虚栄であり、自己中心であり、欺きであり、人を傷つける力なのです。私達が道を踏み外すということが一番危険なことなのです。世の中の人でもクリスチャンも問題が起こるのは同じです。「…あなたがたは、世にあっては患難があります。」(Ⅰコリント 16:33)と聖書にも書かれています。どちらかというところクリスチャンの方が患難が多いような気がします。多くの人と嫌な人とは付き合わないという選択をする中でその人と向き合っていくからですね。ですから、私達は向き合えなかった人が走ることがなかったゴールを見出すことができるのです。これがすごいのです！けれど、ゴールが見えない走り方ではすべて諦めにつながってしまっています。せっかく再建し始めたのに壊れてしまっている意味がありません。わかっているけれど壊れません。けれどわかっているやめてしまうのです。神様の前に正しく決勝点を得て走りたくいわけですね。

## 焼けない家を建てる Ⅰコリント 3:9～13

昨日の礼拝では回復を話しました。ですから皆さんは昨

日誰かと回復を試みて、自分の中で回復を試みて、新年をこめて迎えられるのだと思います。そして、ここからはじめて家をもう一度建てていくわけですね。建てていく時に大切なことは焼けない家を建てるということです。不思議なことに「金、銀、宝石、木、草、わら」どれで建てようかとは書かれていません。わらが悪いとは言っていない。それぞれいいものもあるし、悪いものもあります。木は十字架目当ての言葉を使っているし、意味があります。金も意味があります。銀は純度が高いという意味があったり、清純といった意味もあります。ですから、各人が何で建てようかを見極めて焼けないようにしなければならぬと言っているのです。それでは焼けるとは何なのですか？例えば会社経営の目的が儲けることであるなら焼けてしまえば「真価をためす」と書いてあるのです。要するに、物事をやる時にそこに真の値打ちがなければ意味がなくて焼かれてしまうということなのです。その人の置かれた環境でその人が真価のある人生を生きなければならないのです。

## 1. 何もしない者になるな

目の前で何かを見た時にベストな時にベストな方法で向き合わなければならないですね。そのことを一歩下がって客観的に見て将来を思って100%その人を愛してやれば実が残ります。けれど、そこに損得勘定があったり評価されたり…そんなものが入ってくるので焼けてしまいます。クリスチャンの世代は一代ではありません。アブラハムが蒔いた種をイサク、ヤコブが刈り取り、ヤコブの蒔いた種はヨセフを通して、ダビデ、ソロモンまで継承されていき、そして神様はソロモンに「あなたの父ダビデに免じて私はあなたを祝福する」と語られたのです。クリスチャンの生涯とはこのようなものです。

## 2. 進むべきゴールを見失うな 真価を問われる

これも今まで話してきたことがセットになっています。

## 3. あなた自身を大切に

「主が家を建てるのでなければ、建てる者の働きはむなし。」(詩篇 127:1) 私達は建築家です。ですから発注者がいて家が完成した時に初めて喜びが起こるわけですが、もし私達の人生が自分のものになっていたらどうでしょうか？自分の家族を自分のものと思えば、自分を自分のものと思えば生きると破壊しかありません。私達がしなければならないのは、発注者の家を建てるということです。自己満足では駄目なのです。自己満足では駄目なのですからあなた自身を保たなければならないですね。あなた自身があなた自身を尊んで生きるということです。家とはあなた自身です。あなた自身が回復し、再建されなければ、建てる発注者を失った家になっていきそれは破壊でしかありません。回復しなければならないものがたくさんあります。けれど、まず第一に自分自身を回復していきたいのです。本当の自分スタートしなければならない。本当にしなければならないことだと思っていることがあるのになんか置いて違うように目を向けて、ましてや焼かれてしまうようなことに目を向けて何かをしないでください。あなたの人生を積み上げ次の世代に自信をもって継承できる生き方をしなければなりません。そのためにイエス・キリストはあなたのすべてのマイナスを背負ってあの十字架に向かっていきました。彼の生き様はあなたがまっすぐ生きていくために彼が彼であることを貫いたのです。この新しいスタートの時に、ぜひもう一度あなたのゴールを見つけてください。あなたはどこに行くのですか？あなたはあなたですか？

(要約者:全本 みどり)

(1月1日)